



平成 17 年 12 月 27 日

各 位

上場会社名 株式会社 フレームワークス
代 表 者 名 代表取締役社長 田中 純夫
(コード番号 3740 東証マザーズ)
問 合 せ 先 執行役員総合企画本部長 石神 成夫
TEL 054-286-5411 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 17 年 7 月 11 日に公表した業績予想および平成 17 年 10 月 14 日に公表した連結業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 中間期業績予想の修正

(1) 中間期個別業績予想の修正 (平成 17 年 6 月 1 日 ~ 平成 17 年 11 月 30 日)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,030	54	32
今 回 修 正 予 想 (B)	662	263	171
増 減 額 (B - A)	368	317	203
増 減 率 (%)	35.7%	-	-
(ご参考) 平成 16 年 11 月中間期実績	997	114	65

(2) 中間期連結業績予想の修正 (平成 17 年 6 月 1 日 ~ 平成 17 年 11 月 30 日)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,030	49	30
今 回 修 正 予 想 (B)	661	269	174
増 減 額 (B - A)	369	318	204
増 減 率 (%)	35.8%	-	-
(ご参考) 平成 16 年 11 月中間期実績	-	-	-

(3) 修正の理由

(個別業績および連結業績)

当社の最近の業績状況といたしましては、売上高の多くを占めていました大型案件(システム・インテグレーション)が端境期を迎えていることから、前期から売上高が大きく落ち込んでいる

状況にあります。このような状況を踏まえ、前期から引き続き、販売力強化や新規顧客開拓など、売上高の回復に向けた施策に積極的に取り組んでまいりました。これらの活動の結果、足下の状況としましては見込み案件数の増加が見られ、既存ユーザーからの追加納入も堅調に推移しております。

しかしながら当社が当初予想していたほどのペースでは、見込み案件の受注成約が進まず、当中間期におきましては予想を大幅に下回る水準で業績が推移することとなりました。

これらの結果、売上高は当初予想を大幅に下回る見込みとなり、売上高の減少に伴い、経常利益および当期純利益も当初予想を下回る見込みとなりました。

* 当中間期における当社の連結子会社は、株式会社日本ビジネスクリエイトおよび北京飛龍日恒科技有限公司（海外子会社）の2社ですが、株式会社日本ビジネスクリエイトは平成17年11月30日をみなし取得日として当社の連結子会社としているため、当中間期の連結業績には影響はなく、また、北京飛龍日恒科技有限公司は事業規模が小さく、当中間期の連結業績に与える影響は軽微となっております。

2. 通期業績予想の修正

(1) 通期個別業績予想の修正（平成17年6月1日～平成18年5月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	2,500	316	190
今回修正予想(B)	2,500	316	181
増減額(B-A)	-	-	9
増減率(%)	-	-	4.7%
(ご参考) 平成17年5月期実績	1,954	161	108

(2) 通期連結業績予想の修正（平成17年6月1日～平成18年5月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	2,529	316	190
今回修正予想(B)	3,544	412	195
増減額(B-A)	1,015	96	5
増減率(%)	40.1%	30.4%	2.6%
(ご参考) 平成17年5月期実績	-	-	-

(3) 修正の理由

(個別業績)

現在の商談状況を勘案しますと、今後下期において見込み案件の受注成約が順調に進む見通しであります。

また、前期より取り組んでまいりました新営業チャネルの開拓戦略の成果として、ターゲット企業の経営層に直接アプローチができる環境が整いつつあり、新規の見込み案件に関しましても受注確度の高い案件が浮上してきている状況にあります。

加えて、当期においては、株式会社日本ビジネスクリエイトおよび株式会社シーエスシステムズのグループ会社化や北京飛龍日恒科技有限公司（中国子会社）の営業開始など、当社のグループ化が加速いたしました。今後、協力的な営業体制を敷き、当社グループのシナジー効果を高め

ていく中で、当社の個別業績に対しても良い影響が得られるものと見込んでおります。

これらの状況を勘案し、現時点においては通期の売上高は当初予想通りとなる見通しです。

利益面につきましては、現在の状況を勘案し、経常利益は当初予想通りとなる見通しです。当期純利益は、平成 17 年 8 月の東京本部移転費用を特別損失に計上したことから、当初予想と比べて微減となる見通しです。

(連結業績)

通期の連結売上高に関しましては、新たに連結子会社となった株式会社日本ビジネスクリエイト(平成 17 年 11 月 30 日連結子会社化)および株式会社シーエスシステムズ(平成 17 年 12 月 31 日をみなし取得日として連結子会社化の予定)の売上が加算されることで、当初計画を大幅に上回る見込みであります。

利益面に関しましては、下期より加算される 2 社の利益、連結調整勘定償却額(いわゆる「のれん代」)の計上を勘案し、経常利益が増益、当期純利益が微増となる見通しです。

以 上